



# とべだより

3月号

横浜市立戸部小学校

それぞれが飛べ、みんなで翔べ、ゆめいっぱい戸部

学校長 柳澤 潤



職員玄関を入ってすぐのフロアーに、七段飾りの雛人形が飾られています。地域の方から譲り受けたもので、昭和初期の人形として大切にしていたものだそうです。子どもたちは給食当番で人形たちの前を通るたびに、担任の先生と盛んに話をしています。時には、ひな祭りの歌を口ずさむ声も聞こえてきます。華やかな演出が、子どもの心をわくわくさせています。

さて、2月17日には、学級での「生活・総合」の総まとめとして、「とべとべファンタジー2017」が行われました。それぞれの学級が年間を通して取り組んだことを、校舎内の各教室や体育館を使って、どの子どもも自信をもって発表していました。当日は、多数の地域・保護者の方が、発表を見に来てくださいました。いつも守り隊でお世話になっているAさんは、「今日は、朝から忙しいよ。たくさん子どもから、見に来てくださって言われているんだ」と、とてもうれしそうに話してくださいました。活動の中で協力を得た、その道の専門家の方や行政の方、そして、企業の方までが子どもたちの応援のために駆けつけてくださいます。大人も子どもも、みんなが発表を真剣に見聞きしています。このような風景も「戸部小ならでは」と思わざるを得ません。みんなに応援されて発表する場があることは、子ども一人ひとりにとって、かけがえのない大きな経験であり、幸せなことです。エンディングの集いでリーダーズ委員会の副委員長は「総合や生活科は、人と人のつながりを深め、自分たちで工夫して考えることや先の見通しをもって実行することなどを学ぶことができるので、すごく大切な時間だと思っています。誰かのためになったり、未来へつなげる活動に取り組んだりする成果を見せることができるのは、とても素晴らしいと思います」と、終わりの言葉を述べていました。

次の週には、授業力向上の取り組みとして、今年度最後の授業研究会をしました。授業そのものの評価とともに、育むべき子ども像、そして、教師としてできることについて、率直に語り合いました。課題を明らかにし、指導力をつけるために、研修の機会が私たちのエネルギーになります。講師の先生からは、「戸部の子どもの姿を見て、子ども一人ひとりが課題に対して考えをもてること、意見を言えることが何より素晴らしい。これは、学校教育目標の“それぞれが飛べ”にも通じています」と、子どもたちをほめていただきました。自信をもって発言できる子どもが育っています。私たち教師は、「夢をもち、夢を実現する子ども」を育むために、やはり、一人ひとりの顔をよく見て、理解し共感し、支援し続けること。さらに、学級づくり、学校づくりの核としての「生活・総合」の取り組みに、一人ひとりに視点を当てるのが大切だと、改めて実感しました。

また、学校としては、再来年度の創立140周年に向けて実行委員会を組織し、満場一致で実行委員長の任を、西区連合町内会・自治会連絡協議会会長、第一地区町内連合会会長 金子勝雄様にお引き受けいただくことになりました。大きな佳節へ向けて、第一歩を踏み出すことができました。

戸部の春、夏、秋、冬を過ごしてきました。戸部のまちでは、子どもも教職員も、そして保護者も地域も、学校教育目標の「それぞれが飛べ、みんなで翔べ、ゆめいっぱい戸部」を常に意識し、みんなが力を合わせ、具体化しようと努力しています。学校教育目標が、まちの目標になっているのです。戸部のまちで育った6年生は、あこがれの存在として、立派な姿で卒業式を迎えようとしています。新たな世界へ向かって、力強く「飛べ」と願わずにいられません。今日まで成長できたのは、ひとえに、保護者の皆様、そして、学校を支えてくださった皆様のおかげです。

一年間、大変にお世話になりました。関係の皆様に、心より感謝を申し上げます。